

10/31/10「ザアカイ、急いで降りてきなさい」ルカ 19: 1-10

ザアカイは取税人でした。彼は人々から高額な税金を取り立てていただけでなく、その上前をはねて自分の懐を増やしていたのです。

ザアカイにとって人生の目的は物質的欲望の充足でした。この世の富を手に入れることでした。しかし、ザアカイは決して幸せな人間ではありませんでした。

富を手に入れた代わりに彼が失ったもの、それは彼自身の人間らしさであり、胸襟を開いて語り合える友人の存在でした。聖書が彼についてたった一行「ザアカイは金持ちであった」としか記していない事実、私達は彼の枯渇した人間性を読み取ることができます。

そのザアカイの住んでいる村に主イエスがやってきます。¥自分の人生には何かが欠けている。そんな気持ちで彼を主イエスを一目見ようという気持ちに駆り立てたのでしょう。

しかし群集にさえぎられて彼は主イエスを見ることはできません。そこで木に上ってそこから主イエスを見下ろしたのです。それを見て主イエスは木の上のザアカイに声をかけます。「ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日私はあなたの家に泊まりたい。」

多分ザアカイは生まれて初めて、自分の存在をそっくりそのまま受け止めてくれる人を発見したのでしょう。栗のいがのような自分を抱き締めて離さない絶対的で無条件な愛と出会ったのです。

その時ザアカイの魂に大きな変化が生じます。180度の方向転換をします。それは彼の主イエスへの言葉に明らかです。「主よ、私は誓って私の財産の半分を貧しい人々に差し出します。そして人々からだまし取ったお金があれば、それを4倍にして返します。」

ザアカイは自分が無条件に受け入れられていることを知り、それを梃子に他者に対する優しい眼差しを自分のものにしたのです。新しい人生を歩み出したのです。生まれ変わったのです。真実の人間らしさに目覚めたのです。それを見て主イエスは言われます。「今日救いがこの家に来た。」

救いとは何でしょうか。絶対的、無条件なる愛によって抱き締められていることを確信し、その確信を足場に他者に向かって優しさの眼差しを差し向けること、これが救いです。ザアカイのように、新しい生き方に目覚めることです。

何年前か、ある凶悪犯に関するドキュメンタリー番組が話題を呼びました。この男は一人の女性を些細なことでも殺害し、逮捕された後も何の悔恨の念も示さない、非人間としか言い様のない存在です。裁判中も遺族への謝罪の言葉は一切なく、判決時の裁判長の厳しい叱責にも顔色一つ変えませんでした。死刑の判決が下され、無表情で、頑で、何の良心の呵責も覚えない彼の日常をカメラは追いつけます。

ある日一人の初老の男性が彼を監獄に訪れます。殺害された女性の父親です。ふて腐れた凶悪犯に犠牲者の父親が語りかけます。私のこの1年間は地獄だった。怒りと憎しみで眠れぬ夜が何ヶ月も続いた。もう耐えられないと思った。私はある時自分に問いかけた。自分はこのまま地獄のうちに一生を終えるのだろうか。怒りと憎しみ以外の道はないのか。そして気がついた。この生き地獄から自分を救い出す道はただ一つ、それはあなたを赦すことだと。だから私はあなたを赦そうと思う。そのことを伝えるために私は今日あなたを訪ねたのだ。

その時、驚くべきことが起こります。凶悪犯の顔がみるみる変わり、大きな声をあげて泣き出したのです。

私はこのドキュメンタリーが捉えた最後のシーンに、赦しの愛は人間をラディカルに変革するという真理を目の当たりにしたように思いました。父親をその背後から優しく支える主イエスが見えるようでした。栗の殻のようになっていた頑な凶悪犯を、がっちり抱き締めて離さない主イエスが見えるようでした。

ですから、私達もザアカイと同じように急いで主イエスの下に降りて行こうではありませんか。そこには、ザアカイを待ち受けていた新しい人生が、人間らしい生き方が、大手を広げて私達を待ち受けているに違いないのです。